

進路だより

札幌伏見支援学校もなみ学園分校
令和5年7月25日発行 NO.2



「自分で決めなさいって言われても、どうやって決めたらいいの？」

校長 倉科辰男

夏がやって来ました。巷では「4年ぶりの〇〇」というフレーズが聞かれる中、賑やかな日常がもどってきています。

今回、進路だよりの巻頭言を書くために他校の進路だよりを読んでいると、進路を決めるためのヒントが多く書かれていました。そのヒントはほぼ共通していて、「目的や希望を持つこと」「調べること」「相談すること」そして「自分で決めること」が大切だ、ということでした。

“その学校で何をしたいのか、目的をはっきりさせる。”

“その会社は、どんな仕事をするのか調べる。”

“担任は進路を決めるための buddy (相棒)。一人で悩まず相談する。”

どれもその通りです。

このようなことを心に留め、悩みながら迷いながら子供たちは進路を決めていくわけですが、その中でも最も大切なことは、私は「自分で決めること」だと思います。言い換えると、「覚悟を持つ」ということでしょうか。なぜかという、自分で選択したことが満足な結果だったら自信になりますし、たとえ望みどおりでなかったとしても「自分で選んだのだから」と納得できるからです。

しかし、「決める」という作業はなかなか難しいことです。“校長”という仕事をしていると、決めなければいけない時があります。その時々状況を見て一番良いと思われることを決めているつもりですが、「ホントにこれでいいのか？」と悩むことは珍しくありません。「決める」という作業は、不安と勇気が共存しているのですね。

だから、常日頃「決める」練習をしていないと、いざ重大なことを決める時、決められないことになってしまいます。若者の進路選択の悩み Best3は「学力・技術が足りない」「自分に合っているか分からない」「やりたいことが見つからない」です。学力・技術は別として、他の二つは決断力に関係しています。

一方、私たちは日々選びながら(=決めながら)生活しています。

(公園に行った時)→滑り台で遊ぼうか？それともブランコにしようか？

(誕生日プレゼント)→今年は絶対〇〇を買ってもらいたい。

(フライを食べる時)→ソースにしようか醤油にしようか。・・・今日は塩の気分！

(帰りは降水確率 30%)→傘を持っていこうか、どうしようか～。

日常生活の中に「決める」という場面は意外と多くあるのですが、あまり意識していないので、人に決めてもらったり、「ブランコがあいているからブランコで遊ぼう」とか「今日は傘を持って行きなさいよ」と手助けをしてしまったりします。こういった手助けは決して悪くはありませんが、もしかしたら決める練習の機会を減らしているのかもしれない。

十数年ほど前から、社会的自立や職業的自立に必要な力は幼児期から段階的に付けていくことが大切だ、と言われています。「自分で決めなさいって言われても、どうやって決めたらいいの？」と話す中高生が多いという

記事を読みました。それまで自分で選んだ経験が少ないなら理解できる話です。「目的を持つこと」「調べること」「相談すること」「決めること」。進路に必要なかどうかは別として、日頃から意識的に練習する大切さを感じたところでした。

〈高等部現場実習の様子〉

6月に入ってから、続々と高等部の現場実習が始まりましたので、その様子をここでお知らせします。保護者の皆様には、今後持ち物の準備から送迎など様々な面でご協力いただくことがあります。また実習ができなくなることや、急に実習が入ることもあるかと思いますが、ご協力をよろしくお願いいたします。

○グループホームを使って、昨年度と同じ実習先で2週間実習したSさん。「グループホームの生活は、どうでした？」と本人に聞いてみると「一人一部屋あたって、エアコン付きで快適でした」とのこと。「実習で大変だったことは？」と聞くと、「働いて、お金をもらって、お菓子を買に行くのを楽しみに頑張りました。」とのことでした。実習先からは「昨年より、意欲的に仕事に取り組んでいた」と良い評価をいただくことができ、充実した時間を過ごすことができたようです。

○5日間の現場実習を笑顔で終了のMさん。休憩中にソファでくつろぐ年上の利用者さんにも臆することなく、見事に間に割って入り、ソファの一番良い席をゲットしたかと思えば、いろんなスタッフさんに気さくに話しかけたりするなど、実習生とは思えない存在感はさすがの一言。もちろん活動(今回は割りばし詰めの作業が中心)のほうも、スタッフさんとのコンビネーションもばっちり！5日間の実習を華麗に走り抜けたのでした。

○6月19日から5日間の現場実習に行ってきたNさん。6月も下旬となり、気温も上がる中でしたが農作業のお仕事をしました。初日は緊張する様子もあり、利用者さんともなかなかコミュニケーションを取ることができませんでしたが、5日間過ごし、最終日には色々な方と楽しく関わる様子が見られました。また、農作業は体力勝負の仕事となり体力をつけることが課題であるとのことだったので、体力づくりの授業ではより力を入れて取り組んでもらいたいと思います。

現場実習では、日常とは異なる環境で第三者の評価を受けることにより、成長した点や逆に課題となる点が顕著に表れてきます。再認識できた今回の実習は、間違いなく大きな成長のチャンスです。新たに発見した目標を一つでもクリアし、達成感を味わえる経験をこれからの生活で重ねてほしいと思います。



<事業所紹介>

NPO 法人スミールヒュース

スミールヒュースみすまい

就労継続支援B型事業所

住所:藤野4条11丁目12-15

農場 簾舞470-2

電話:011-596-0626



ほぼ1年中農作業を行っています。農作業としては、土興し、種まき、苗植え、灌水、除草、収穫、袋詰め、出荷、除雪などがメインとなり、冬期間はハウスの中でほうれん草や小松菜などを栽培し、夏はトマト、大根、にんじん、トウモロコシなど20種類程度を札幌市内や東京方面の会社などと契約して栽培しています。その他に委託作業として、ホテルのアメニティの箱折り、食品の箱折り、施設外就労として定山溪のホテルでの布団上げ、シーツやタオルの回収、近隣農家の手伝いなども行っており、今後は、清掃活動、シール貼りなどの軽作業、PC関係(データ入力)チラシポスティング等を取り入れて行く予定です。

送迎は、真駒内駅、南の沢、北ノ沢、澄川、常磐中学校前まで行っているそうです。

合同会社青空

社会福祉事業所アオゾラ

就労継続支援A型

住所:南区石山816番地

電話:011-592-3200



食品の製造と販売をしている「青空や」と、薪作りや農作業をしている「アオゾラ」の2か所に分かれている事業所になります。

「青空や」は、南区石山の平岸通り沿いに自家栽培野菜を使ったお弁当やお惣菜を販売している店舗です。高等部の現場実習でもお弁当を注文し、日替わりのお弁当はとてもおいしかったです。

「アオゾラ」は、男性のみとなっており、活動内容としては薪割り(機械を使用・こちらの方が安全)、乾燥のための積み、積み場の草刈り(草刈りかま・刈りはらい機使用)、出荷、畑作業(山わさびがメイン)その他木工作业などもたまに行っています。昼食は店舗で作って運んでくれているようです。

送迎バスは、真駒内駅から「青空や」を経由して「アオゾラ」まで行っているようです。